



編集委員が地域の皆さんにインタビュー!

## 新島でテレワークにいち早くチャレンジし、現在は新島観光協会で活躍されている高橋徹さんにインタビューしました。

木村：昨年新島に移住されたそうですが、島暮らしはどうですか？

高橋：都会の人混みが苦手なので、島は性に合っています。移住前も妻の地元・新島へは混み合うお盆を避けて来ていたくらいです。

木村：もともと新島でテレワークをしようと試まれたそうですね。



高橋徹(とおる)さんプロフィール  
横須賀市出身の50代。長女(社会人)・長男(大学生)の父。妻が新島出身。屋号は「よそべ(青沼)」。理系大学卒業後、NTTテクノクロス(当時はNTTソフトウェア)に入社。昨年4月に新島に移住し、クリエイトセンターにオフィスを借りてNTTテクノクロス社員としてテレワークを実施。12月より新島村観光協会の事務局の中心メンバーとして活動中。

高橋：IT技術で島の課題を解決できないかと思いつき、ドローン(小型ラジコンヘリのようなもの)で害獣である鹿の撮影を試みました。島は東京から近いのに、異世界と感ずるほどの自然。とてもリフレッシュできます。感覚的には、島でのテレワークは東京で働くより3割ほど効率上がる気がしました。

木村：現在は新島観光協会の事務局で、島の動画を配信されるなど、ネットでの発信が上手だなと感じます。

高橋：デジタル小物が好きなので、活用は苦にならないです。海の中を撮影できる水中ドローンも準備しているので、今後は新島の海の映像も紹介していきたいです。

観光協会に入ったことで、人のつながりが広がって嬉しいです。島に移住してきたからには、新島の発展の役に立ちたい!と思っています。

木村：議会だよりを読んでも、下さっていますか？

高橋：地域課題の予習として、広報にじまと合わせて移住前から読んでいました。鹿や養殖場などの特集が良かったです。ここ数年は新しい試みも多く、読んでいて面白いですね。

### 編集後記

編集長になってから1年が経ちました。その間、光回線の断裂、大型台風の影響、再び起こった光回線の断裂、そして新型コロナウイルスと度重なる非常事態に、議会だよりも何を住民の方々に伝えていくのか、模索しながら紙面づくりをしてきました。

さまざまな事態に私たちのこれまでの日常は一変し、新しい生活様式に適應することが求められます。初めて耳にする言葉、テクノロジーの活用、難しいことはたくさんありますが、課題を次世代に残さず、新しい取り組みに前向きになりたいと思います。議会だよりでも、そんな新しい取り組みを積極的に住民の皆様にお伝えしたいと思います。

〈小久保利佳〉

- 広報編集委員会メンバー
- 委員長：小久保利佳
- 副委員長：木村諭史
- 委員：前田泉
- 前田寿夫
- 青沼弘